

数学・数理科学・応用数理

序

この文集は、1995年8月7日～8日御殿場で行われた研究集会「諸科学に現れる数理科学的手法の研究」(文部省科学研究費 総合(A) 代表 山口 昌哉)出席者による、数学・数理科学・応用数理に関する文章を集めたものである。最近、数理科学という言葉を目にする機会が多いが、その意味は使う人によってまちまちである。数理科学研究所設立の勧告が日本学術会議から出され、研究所設立に向けて準備が行われている現在、数学、数理科学の意味、関係をはっきりさせることは意味のあることと思われる。

研究集会では「数学・数理科学・応用数理」に関して活発な議論がかわされた。まとまった結論が出るよりも、相互理解に向けての討論が主体であり、参加者には大変有益な会であった。しかしながら、こうした議論は日本の数学界で広く行われるべきものであると考えられる。そこで、日本数学会会員に広く読んでもらえるように、「数学・数理科学・応用数理」に関連して文章を書いていただくことを出席者に特にお願いしたところ、賛同を得、多くの方々から以下の文章を頂くことが出来た。

近年数学をめぐる環境は一変し、「数学」の名前が、大学から消えつつあるのが現状である。そのことが数学の将来に大きな影響を与えることを憂慮する声も多い。数学の置かれている現状を認識し、大いに議論をし、様々な立場があることを理解し、これからの進むべき方向を見出す努力をすることは、今最も求められていることである。この文集が、こうした議論を興す一助になれば幸いである。

なお、それぞれの文章を主題に応じてグループ分けすることを当初考えたが、各文章の内容が多岐にわたるため、執筆者の五十音順に配列することとした。

日本数学会将来計画ワーキンググループ
1995年度担当理事 上野 健爾